

「商工業振興」
「子ども条例」について



市議会 田中 健 議員

問 中小企業振興条例の制定に向けての進捗状況は。

答 市内の事業者数が減少している中で、支援体制の拡充は必要。24年度内の制定に向け、検討委員会を設置の予定。知立まちづくり株式会社への補助額と、その趣旨は。

問 今期3千800万円。18年間の累計約8億円。公益上必要な施設の運営経費として補助。自立できる経営体制、施設の運営のあり方の見直しは。



答 ホールとしての評価も高く、稼働率も良いが採算は厳しい。パティオとの広報活動の一体化など期待される。

問 子ども条例策定にあたり、他市で問題になった、子どもの権利についての取り扱い。

答 権利を強調しすぎず、子どものためのまちづくりが主。

問 子どもの権利を擁護する第三者機関の設置は円滑な学校運営の妨げにならないか。

答 十分検討して決めていく。

問 子ども会の現状の認識は。

答 異年齢による地域活動を通じて、子どもの心身の成長を促す存在。市内の子ども会加入率は5割以下。子どもの希望よりも、大人の都合が優先されているように残念。子ども会だけでなく地域で子どもが参加できる取組みも必要。おやじの会は頼もしい存在。

総合グラウンド計画と
市民盆踊り大会の復活



市議会 三浦 康司 議員

問 市長は選挙公約で総合グラウンドの建設を凍結しているが、市民は早期の着工を望んでいる。凍結解除すべきでは。
答 厳しい財政状況の続く中、市民からの要望が強いのは理解しているが、鉄道高架等と大型事業が山積。財政を考えると凍結は解除できない。



問 早期にどの市民要望のある中、パティオ池鯉鮒、南側の山居下地区にグラウンドを設置し、文化・スポーツゾーンとして設備しては。パティオ駐車場の共同利用や猿渡川の氾濫時に対応できる遊水地公園グラウンドとしても最適と考えるが。

答 凍結解除となれば、現在の候補地の再検証も含め、更なる候補地の一つとして、文化・スポーツの拠点、防災、治水対策も踏まえ検討していく。

問 よいとこ祭りが開催されたが、年々参加者が減っている。目的をはっきりさせ、以前の市民盆踊り大会も視野に

答 入れ見直すべきではないか。今回のよいとこ祭りは雨天の開催となり市民より多くの意見が寄せられた。雨天対策や踊りの審査など今後検討していく。開催方法については、市民や各関係団体に意見を聞き考えていきたい。

